

平成 30 年 7 月豪雨を踏まえた高梁川本川沿川4市長との意見交換会 議事概要

日時:令和7年2月7日(金)10:45~11:45

場所:倉敷市真備支所101会議室

【市長から出された主なご意見】

- 県には、高梁川河川改修事業を令和 6 年に新規事業化していただいた。唐松地区は、河川整備計画に基づく整備のため、長期にわたると思うが、市民の安心・安全のために早期の完成をお願いする。また、井倉地区への早期着手もお願いする。
- 県には、本市の要望を踏まえて、浚渫を実施していただいた。近年の豪雨によって、住民からの要望箇所が増えているため、本市としても、残土処分地の確保等に尽力する。国・県には、今後の更なる予算確保と、より多くの要望箇所への対応をお願いする。
- 平成 30 年 7 月豪雨から 6 年が経過し、住民の防災意識の低下を感じている。その対策として、広報誌や Web 等での情報配信、市民ホールや図書館でのパネル及び防災資機材の展示等を行い、意識啓発に取り組んでいる。
- さらに、中国電力主催でダム写真のパネル展や、市職員向けの視察の場を設けていただき、利水ダムの役割や事前放流の仕組みについて理解を深めることで安心感につながった。今年度は、ダムの事前放流が 3 回実施されたが、今後、実績データと気象予測の高度化に基づいて更なる精度向上を図っていただきたい。
- 来年、防災・減災、国土強靱化のための 5 か年加速化対策が最終年度を迎える。高梁川中上流部はこれから整備予定であり、一級河川高梁川水系中上流ブロック河川整備計画に基づき、中上流部の国土強靱化を進めるためにも、財源の確保と強力な推進をお願いしたい。
- 成羽川の高梁川本川との合流点において、堤防整備を進めていただいている。今後とも事業進捗に関する情報提供と、十分な予算確保、早期完成をお願いする。
- 本市には、20 以上の支川があり、局所的な豪雨による氾濫の危険性も高いため、河川監視カメラの設置等にも財政支援を頂きたい。
- 本市は、IDR4M の実証実験にモデル自治体として参加したが、流域全体で取り組むことで、避難情報発令のタイミング等に関する自治体間の連携の強化に繋がるため、国には、今後の全国への展開について、引き続き情報提供をお願いしたい。
- 平成 30 年 7 月豪雨を受けて、ダム管理者と河川管理者との横連携や、市町村間の情報共有等の課題が浮き彫りとなった。本意見交換会において、改善に向けた検討を進めてきたことで、災害時にすぐ連携できる体制を整えることができたと考えている。
- 県には、伐木や築堤等を進めていただいたが、未完工の箇所について、引き続き対策をお願いする。

- 緊急自然災害防止対策事業債、緊急防災・減災事業債の延長について、各市町が連携して要望していく。
- 平成 30 年 7 月豪雨以降、防災・減災、国土強靱化のための 5 か年加速化対策等、国・県・市・民間企業が連携して取り組んできた。
- 令和 6 年 11 月出水における、小田川合流点付替え事業による水位低減効果を示していただいた。昨年は大きな雨が何度もあり、これまでは毎回、小田川下流で排水機場のポンプをフル稼働させていたが、昨年は 1 回も稼働させる必要がなかったため、住民の安心にも繋がっている。
- 国には、酒津地区の堤防強化や、笠井堰の改築にも着手していただいた。酒津地区の堤防が決壊すると、倉敷市街地から岡山市までの広い範囲で浸水すると想定されるため、一日も早い完成をお願いする。
- 各ダム管理者が、事前放流や、その広報活動等に取り組んでいただいており、日々の安心・安全に繋がっている。中国電力が所有する、ダム操作のシミュレーションセンターを本市も見学させていただきたい。
- 今後の更なる降雨の激甚化に向けて、高梁川・小田川流域で行ったこれまでの取組を全国に向けて発信していく。小田川合流点付替え事業による効果を確認し、本意見交換会も閉会となるが、今後も減災対策協議会等を活かして積極的に取り組む。

【河川管理者及びダム管理者からの主な発言】

- 本日、小田川合流点付替え事業による効果を提示したが、今後予定している河川事業においても、事業効果を目に見える形で提示していき、事業の必要性の理解につなげていきたい。
- これまでの整備で終わりではなく、安心・安全を維持するためにも、改修や維持を着実に進めることが重要である。さらに、今後想定される気候変動の影響に対して、事前防災対策を進めるためにも、河川整備計画等の気候変動対応型への見直しを進めていく。国土強靱化実施中期計画が策定される中で、今後も国土強靱化に関する予算を確保し、気候変動対応の事業も進めていきたいと考えているので、各首長から引き続きご支援等をお願いしたい。
- 緊急浚渫推進事業債や緊急自然災害防止対策事業債に関する各首長からの要望を中央に伝えるとともに、引き続き、国土交通省の事業である防災・安全交付金等により、ハード・ソフト両面からの支援をしていきたい。
- 災害時の連携が、より強固になっているのを感じている。災害時の連携を円滑にするためにも、引き続き減災対策協議会の場を活用し、顔の見える関係作りにご協力いただきたい。
- 小田川合流点付替え事業が竣工し、一つの区切りではあるが、今後、高梁川中上流部の整備を国・県が連携して着実に進めていく。引き続き、安心・安全なまちづくりに向け

て、国・県・市が連携して流域治水の推進に取り組む。

- 高梁川上流域の改修を進めるために、防災・減災、国土強靱化のための 5 か年加速化対策の後継となる予算の確保が必要である。引き続き、国への要望にご協力を頂きたい。
- 新見市の唐松地区は地元説明を行ったところであり、井倉地区については、市と観光振興を踏まえた調整をしながら事業を進める。
- 浚渫や掘削、伐採は、優先順位の高いところから順次、事業を進めているが、来年度からは予算を拡充し、再繁茂・再堆積対策も実施するよう事業を拡大している。
- 事前放流は、流入量予測システムの検証を毎年必ず実施しており、今後も継続して精度の高い事前放流の運用を目指す。
- 高梁市内の河川改修は、成羽川との合流点から着手しており、今後も市との連携を密に事業を進める。
- 河川監視カメラの設置は、交付金事業や緊急自然災害防止対策事業債の起債事業で対応できるため、県の河川課に相談いただきたい。
- 総社市内では、復緊事業は完了したが、浸水重点事業は来年度に完了予定である。下流から順次、掘削、伐採を進めており、引き続き上流に向けて進める。
- 倉敷市内の掘削についても、引き続き対応していく。ダムでは、事前放流に加えて、低水管理の運用もしており、引き続き、効果的な運用方法の検討を進める。
- ダムの運用は、低水管理や事前放流等、適切なダム管理に努める。また、流域治水の取り組みとして、田んぼダムの推進に向けた普及啓発を図る。
- 倉敷市から頂いた、ダムのシミュレーション訓練の視察について、別途調整させていただく。
- 事前放流の運用について、適切な維持管理や人材育成、ルールの順守を徹底し、ダム管理者としての責務を果たす。
- しかし、平成 30 年 7 月豪雨の際は、新成羽川ダムの流入量が貯留容量の 2～3 倍と、ダムの貯留だけで被害を防ぎきれない量が流入した。事前放流は、住民の避難に要する時間を確保するための時間稼ぎに過ぎないことを念頭に、万全を尽くしていただきたい。

【今後の予定】

- 小田川合流点付替え事業による効果の確認を以て、本意見交換会は今回で閉会とする。
- 今後、国・県が河川整備計画に基づいて、中上流部の事業を着実に進めるとともに、ダムの事前放流も含めた災害時の対応について引き続き連携して進めていく。
- 今後は、減災対策協議会を活用して、流域治水の推進に向けた意見交換をさせていただきたい。

【質疑】

- 事前放流が万全でないことは了承しているが、避難に要する時間の確保は、人の命を守る上で重要ということを念頭に、引き続き運用をお願いしたい。
- 避難支援システム(市町村災害対応統合システム)の実証実験結果を教えてください。
- 避難情報の発令単位と、洪水ハザードマップを重ね合わせて見ることができ、的確なタイミングで発令の判断ができるとのご意見を頂いている。来年、引き続き実証実験を行い、令和 8 年度以降、川の防災情報等実装される予定である。興味のある自治体は、ぜひ実証実験に参加していただきたい。

—以 上—